

「献血推進 2014」の進捗状況について

1. 経緯

少子高齢社会化が進む中、血液の安定した供給体制を構築するため、平成17年度から5年間実施した「献血構造改革」の結果及び日本赤十字社が実施した血液需給将来推計シミュレーションの結果等を踏まえ、平成26（2014）年度までの達成目標を設定し、献血推進を行ってきた。[献血推進2014]

2. 「献血推進 2014」の平成25年度までの実績

| 項目 | 目標 | 平成21年度 (2009年) | 平成22年度 (2010年) | 平成23年度 (2011年) | 平成24年度 (2012年) | 平成25年度 (2013年) |
|-------------|-----------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 若年層の献血者数の増加 | 10代の献血率を6.4%まで増加させる | 6.0% | 6.1% | 5.8% | 6.2% | 6.3% |
| | 20代の献血率を8.4%まで増加させる | 7.8% | 7.9% | 7.5% | 7.5% | 7.2% |
| 安定的な集団献血の確保 | 集団献血等に協力いただける企業・団体を50,000社まで増加させる | 43,193社 | 45,343社 | 47,137社 | 49,232社 | 50,712社 |
| 複数回献血の増加 | 複数回献血者を年間120万人まで増加させる | 984,766人 | 999,325人 | 1,001,516人 | 1,003,778人 | 996,684人 |

- (1) 若年層の献血率については、10代は、平成23年度に一時低下したが、平成24・25年度と上昇した。20代は、平成22年度に一時上昇したが、その後は、低下している。引き続き、若年層への働きかけを行っていく必要がある。
- (2) 企業献血については、平成25年度の段階で50,000社を超え、目標を達成した。まだ、新規開拓する余地はあるため、引き続き企業献血について働きかけを行っていく必要がある。
- (3) 複数回献血については、着実に数字を伸ばしてきたものの、平成25年度において減少した。血液の安定供給のためにも、引き続き複数回献血者の確保に取り組んでいく必要がある。